

(独)Okkasionalität

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43352



偶因性 [(独) Okkasionalität]

ある種の言語表現が具体的な使用場面において蒙る本質的な意味の変動（指標性）のこと。フッサールによれば言語表現のいわゆる「意味」は、告知（意味付与作用および意味充実作用）・意味内容（イデア的意味）・対象性（志向された対象）の三つであり、ことに表現は意味内容を介して対象を指示するとされる [LU II/1 46ff.]. それゆえふつう意味内容が決まれば対象も一つに決まるが、なかには意味内容が同一でもその対象的意味をそのつどの機会に応じて、つまり話し手とその状況に応じて決定しなければならないような、偶因的と呼ばれる一群の表現がある。たとえば人称代名詞や指示代名詞といった指示語がその典型的な例であり、他方、発話の状況に無関係に理解される理論的表現や数学的表現は客観的表現と呼ばれる。偶因性は、一つの語が複数のイデア的意味をもつ場合の多義性とは本質的に異なる。なぜなら「私」という語が指示する人物（対象的意味）はそのつどの話し手によって異なるが、〈そのつどの話し手を表す〉というこの語の指示機能 (Anzeige) としての意味はつねに同一だからである。つまり偶因的表現においては、後者の〈指示する意味〉と前者の〈指示される意味〉の二つが独特な形で重ね合わされているのである [LU II/1 80ff.]. したがって指示する意味とは対象の現前なしに理解されうる同一の指示的思念であり、指示される意味とはその